ISSN 1344-5642

図書館報

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

2014. April No.176

ブックレビュー 新入生にイチ押しの1冊

1 **パリ万国博覧会と報告書 1855−1937**−西南学院大学図書館蔵書を中心に−
第3回 1900年パリ万博＆1925年パリ万博
図書館長　後藤 新治

2 **ブックレビュー**
「火車」副学長 法学部 法律学科 教授　小山 雅亀
「わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女」
西南学院大学女子同窓会 会長　藤井 千佐子
「神様のカルテ」法学部 法律学科 4年　粟田 晶
「池上彰の宗教がわかれば世界が見える」文学部 英文学科 3年　前澤 里奈

3-4 **新図書館建設に向けて**
第2回 西南学院大学新図書館の紹介
図書館長　後藤 新治
図書情報課長　古庄 敬文

5-6 **データベース紹介**
東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー 図書情報課　坂本 里栄
OED_Onlineのすすめ:古今英語語彙のドラマティックな履歴書 後編
文学部 外国語学科 英語専攻 教授　久屋 孝夫

7 **蔵書ギャラリー no.17**
『國華DVD-ROM』
国際文化学部 国際文化学科 准教授　尹 芝惠

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY

パリ万国博覧会と報告書 1855-1937

ー西南学院大学図書館蔵書を中心にー

第3回 1900年パリ万博&1925年パリ万博

図書館長 後藤 新治

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。学生生活充実の秘訣は大学図書館をいかに使いこなすかにかかっています。未知の問題に遭遇した時、ひとり静かに考えたい時、みなで議論したい時、悲しい時、嬉しい時、どうぞ図書館にいらして下さい。スタッフ一同温かく歓迎いたします。きっと新しい何かが見えてきます。

さて、昨年の春スタートしたこのシリーズもいよいよ二十世紀。フローベールによって「十九世紀の錯乱」(『紋切型辞典』)と揶揄された博覧会ですが、一世紀の総決算として開催された1900年パリ万博でその熱狂ぶりは頂点に達しました。博覧会当初の目的、殖産興業の掛け声は次第に影をひそめ、代わって前面に登場して来たのがエンターテイメントと消費(Fig.7)。メトロが開業し、地方からの観光客動員を狙って万博メイングート近くにオルセー駅も完成。アトラクションでは「シベリア横断鉄道パノラマ」が人気を博し、全線開通より一足先に人々はヴァーチャルツアーを楽しみました。建築の分野では、エンジニアによって設計されたアレクサンドル3世橋の鉄骨構造が、建築家と石工の装飾ですっぽり覆い隠されるなど、前回の万博に比べると明らかな「後退」(伝統への回帰)が見られます。また絵画や彫刻などの美術以上に、家具やインテリアなどの装飾芸術に人々の関心は集まりました(Fig.8)。リュミエール兄弟が発明したばかりのシネマトグラフィーで撮影した博覧会の映像はYouTubeでも見ることができます。

真っ赤な表紙の上部に会場鳥瞰図、下部に電気宮を金泥と墨で陰刻した豪華装幀の『1900年パリ万国博覧会 世紀の百科事典』全3冊(Fig.1, Fig.7, Bib.1)は、各号8頁の本文に木口木版による見開き図版を1回分配本とし、40回分を1冊とする従来の形式を踏襲。巻末の索引によって検索可能な各パヴィリオンやアトラクションの詳細な情報と豊富な図版は「世紀の百科事典」の名に恥じない質と量を誇っています。

『1900年パリ万国博覧会の美術と装飾芸術』(Fig.2, Bib.2)は、ミレニアムの博覧会を記念してグラン・パレとプティ・パレを主会場に開催された「フランス美術100年展」および「フランス美術と外国美術10年展」の展覧会図録。主要作品をエッチングなどの複製図版で掲載したほか、最後に「装飾と芸術産業」部門を設け新傾向の装飾芸術を紹介したのは画期的でした。

世紀末芸術を代表するアール・ヌーヴォー art nouveau(新芸術)という言葉、広義には1889年パリ万博のエッフェル塔に代表される公共の鉄のモニュメントを指していましたが、1900年パリ万博では植物などの自然的形態を模した私的な装飾を意味するようになりました。V. シャンピエ編『1900年パリ万国博覧会の芸術産業』(Fig.3,Fig.8,Bib.3)は出品作品を素材別に6部門に分け、約1300点の図版でこれらアール・ヌーヴォーの潮流を徹底紹介。

商業産業労働省が博覧会閉幕後7年の歳月をかけてまとめあげた過去1世紀間の内外の文化的総括がA. ピカール編『1900年パリ万国博覧会　19世紀の総決算』全6冊(Fig.4, Bib.4)。教育、芸術に始まり、機械や農業、経済などを経て、植民地、国防に至る全分野が網羅された力作です。

両大戦間の20年代と30年代に流行したデザインを今日ではアール・デコart déco(装飾芸術)と呼んでいますが、その名の起源になったのが次に紹介する1925年のパリ現代産業装飾芸術国際博覧会 Exposition internationale des arts décoratifs et industriels modernes。機能と装飾、前衛と古典、機械と手工、国際と国内、革新と保守など、互いに矛盾する性格を併せ持つこの様式には不思議な魅力が備わっています。第一次世界大戦は博覧会の呼称を一元的な「万国」universelleから多元的な「国際」internationaleへと変えましたが、そこには戦間期の「秩序への回帰」が色濃く影を落としていたのも事実です。

R.ヴェス編『1925年パリ現代産業装飾芸術国際博覧会　パリ市展示館』(Fig.5, Bib.5)は、パリ市が独自のパヴィリオンを出展し、市立の小学校や職業専門学校の教員に人形劇のマケットや書物の装幀、テキスタイルやファッションなどを競作させた貴重な記録。

最後は20枚の鮮明な写真で博覧会のメイン会場と主要パヴィリオンを概観した『1925年パリ現代産業装飾芸術国際博覧会 記念写真集』(Fig.6, Fig.9, Fig.10, Bib.6)。ここに見られるいわゆるアール・デコ建築は30年代に大西洋を渡りニューヨークの摩天楼で開花したことはよく知られています。

二十世紀のパリ万博は、華やかな革新とともに反動的な保守の祭典でもありました。

(国際文化学部 国際文化学科 教授)

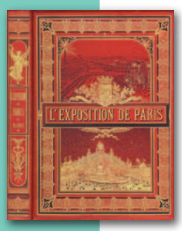


Fig.1『1900年パリ万国博覧会 世紀の百科事典』全3冊 (Bib.1)

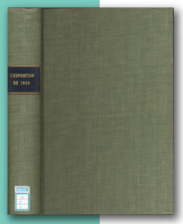


Fig.2『1900年パリ万国博覧会の美術と装飾芸術』(Bib.2)

Fig.3 V. シャンピエ編『1900年パリ万国博覧会の芸術産業』(Bib.3)

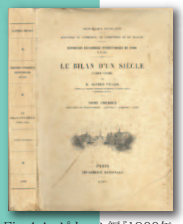


Fig.4 A. ピカール編『1900年パリ万国博覧会　19世紀の総決算』全6冊 (Bib.4)

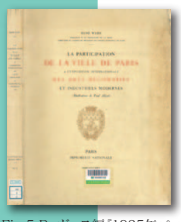


Fig.5 R. ヴェス編『1925年パリ現代産業装飾芸術国際博覧会　パリ市展示館』(Bib.5)

Fig.6『1925年パリ現代産業装飾芸術国際博覧会　記念写真集』(Bib.6)

Fig.7 色刷石版画による万博報告書の口絵が、エキゾティックな香りを漂わせながら人々を夢の消費世界へと誇う。『1900年パリ万国博覧会　世紀の百科事典』(Bib.1)

Fig.8 1900年パリ万博に出品されたマスリエラ(スペイン)の錬鉄とブロンズによるジャポニスム風門扉。V. シャンピエ編『1900年パリ万国博覧会の芸術産業』(Bib.3)

Fig.9 アール・デコ博ではフランスの主要デパートからの出展が相次いだ。ボワローによる老舗ボン・マルシェの「ポモーヌ館」もその一つ。『1925年パリ現代産業装飾芸術国際博覧会　記念写真集』(Bib.6)

Fig.10 山田七五郎、山本岩吉、島田藤吉の三人が腕を振るった日本館。同じ会場にはル・コルビュジエの「エスプリ・ヌーヴォー館」も建っていたのだ。『1925年パリ現代産業装飾芸術国際博覧会　記念写真集』(Bib.6)

＜参考文献＞
Bib.1) *Encyclopédie du siècle: L'Exposition de Paris (1900); publiée avec la collaboration d'écrivains spéciaux et des meilleurs artistes,* Paris, Librairie illustrée, Montgredien et Cie, Editeurs,[1899-1900],3 vols;tome Ier,324pp,378x280mm [閉架 606/9/22-2-1] [復刻版:閉架 606/9/1D-1];tome II,320pp,378x280mm [閉架 606/9/22-2-2] [復刻版:閉架 606/9/1D-2];tome III,320pp,378x280mm.[閉架 606/9/22-2-3] [復刻版:閉架 606/9/1D-3]　Bib.2) *Les Beaux-arts et les arts decoratifs à l'exposition universelle de 1900,*Paris,Gazette des Beaux-Arts,[1900],526pp,317x224mm. [閉架 706/9/9]　Bib.3) Champier,Victor.*Les Industries d'art à l'exposition universelle de 1900:ouvrage en deux parties,illustré de près de 500 planches hors texte et de 800 gravures dans le texte,*1re partie:2 tomes en 1 vol,Paris,Bureaux de la revue des arts décoratifs,1902,254pp,302x214mm.[閉架 757/0/7]　Bib.4) Picard, Alfred. *Exposition universelle internationale de 1900 à Paris: le bilan d'un siècle (1801-1900),* Paris, Imprimerie nationale, 1906-1907, 6 vols : tome Ier, 530pp, 295x198mm ; tome II, 406pp, 295x198mm ; tome III,437pp,295x198mm;tome IV,453pp,295x198mm;tome V,470pp,295x198mm;tome VI,556pp,295x198mm.[2013年度教育IP購入図書→図書館所蔵予定]　Bib.5) Weiss,René.*La Participation de la Ville de Paris à l'Exposition internationale des arts décoratifs et industriels modernes;illustrations de Paul Méjat,*Paris,Imprimerie Nationale,1925,81pp,341x256mm.[閉架 606/9/21]　Bib.6) *Album souvenir:exposition des arts décoratifs: Paris - 1925,*Paris,Etablissement Papeghin,[1925],n.p.[20 planches],180x258mm.[2013年度教育IP購入図書→図書館所蔵予定]

ブックレビュー 新入生にイチ押しの1冊

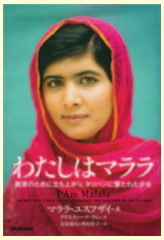
『火車』

宮部みゆき著
双葉社 1992年
（ベストセラー(開架2階) 913/6Mi71/5）
副学長
法学部 法律学科 教授 小山 雅亀

著者である宮部みゆきさんは多才な方で、その作品も多彩で小説のほとんどの分野をカバーしています。本書は推理小説に属するのでしょうが、推理小説は純粋に論理的に推理を進める「本格派」を中核としつつ、多数のジャンルに分類されています。中でも、推理小説という形をとりつつ現実社会の問題を取り上げる「社会派」というジャンルも有力です（松本清張「点と線」が著名です）。推理小説の内容を紹介するのは禁じ手ですから、本書は「カード社会」の問題を早い時期に取り上げているとだけ紹介しておきましょう（理屈抜きでも面白い本です）。

新入生の皆さんが4年間の学生生活を通して「大人」に成長してくれるように願っています。ところで「大人」とは何でしょうか。抽象的にはともかく、具体的には多数の要素からなっています。中でも自分が暮らしてゆくための経済観念を身に着けていることが重要な要素です。本書が執筆された時期と比べて、現代はお金のカード化・バーチャル化がさらに進んでいます。それは便利に違いないのでしょうが、大きなリスクが存在している（悪意でそれを利用しようとする人々や組織もあります）ことも自覚しておく必要があります。本書をその一つの道案内としていただければ幸いです。

『わたしはマララ :教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』



マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム著
学研パブリッシング 2013年
（開架2階 289/2Y95/1）
西南学院大学女子同窓会（西南ゆりの会）会長（73期）
藤井 千佐子

2013年7月、パキスタンの少女マララ・ユスフザイが16歳の誕生日にニューヨークの国連本部で演説し、教育の大切さを訴えました。マララはノーベル平和賞の候補にも取りざたされたことから、皆さんも名前は聞いたことがあるでしょう。この本は、女子への学校教育を禁止する反政府武装勢力・タリバンに撃たれたマララが、ひん死の重傷から生還し、国連本部で演説するに至るまでが描かれています。

マララが渇望したのは「学校に行ってみんなと勉強する」という当たり前のこと。そのためにタリバンの攻撃にさらされたのです。「ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えるのです。教育こそ、唯一の解決策です、まず、教育を」という言葉で締めくくったマララの国連演説は感動的で、各国代表のスタンディングオーベーションが続いたそうです。

皆さんは今、始まったばかりの大学生活に胸を膨らませていると思います。そんな時だからこそ、マララのように教育を受けるという当たり前の権利が行使できない社会が今も存在するという現実を知っていてほしいのです。そして、「学ぶ」ということがどれほど自分にとって財産に、力になるかということを心に刻んでほしいと思います。

『神様のカルテ』（全3巻）

夏川草介著
小学館 2009-2012年
（ベストセラー(開架2階) 913/6N58/26-1～3）
法学部 法律学科 4年 粟田 晶

大学生活を送っていると、大小様々な選択をしなければならない場面に出会います。例えば、春ならサークルをえらび、冬にはゼミをえらび、学年があがると自分の進路についても改めて考える必要があります。そんな時に、選択のヒントやきっかけを本から得ることもできるのではないでしょうか。

私は法学部の学生であり、地方の病院で医師として懸命に患者と向き合う主人公は一見全く無関係のように見えます。しかし、この本がきっかけとなって医事法という医療に関しての法分野を研究するゼミを選択しました。また、そのゼミに所属してからも「がん告知」というテーマを取り扱っています。これもまた作中で、医師として、そして人として末期のがん患者と向き合う主人公の姿がきっかけのひとつとなっていると言えます。主人公は当然架空の人物ですが、地方医療や医師の負担のことを考えるときには、主人公の姿がふっと脳裏に浮かんでしまいます。

この本を初めて読んだときには、まさかこんなにも一冊の本に影響を受けるとは思いませんでした。この本と私との関係はあくまで一例であると思いますが、自分にとってどんな本がどのような影響を与えるのかは計り知れないことです。是非様々な選択の機会のためにも、教科書や推薦図書だけではない、多様な分野の本と出会い、選択のきっかけを得てください。

『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』

池上彰著
文藝春秋 2011年
（開架2階 160/0/40B）
文学部 英文学科 3年 前澤 里奈

週に三日チャペルで礼拝が行われることや、キリスト教学が必修であることなどから、西南学院大学と「宗教」との関わりはとても深いものである、というのは新入生の皆さんもご存知の通りでしょう。しかし、キリスト教を始め、世界にある宗教がそれぞれどのようなものなのか、ぼんやりとしたイメージしか持っていない方も多いのではないのでしょうか。

この本では各宗教の内容や違いはもちろん、「インド人はみなターバンを巻いているのか」「日本人は無宗教なのか」といった宗教絡みの疑問に対する答えも、池上彰さんの分かりやすい文章で書かれています。その後は養老孟子さん・山形孝夫さんなど専門家たち七人との対談がまとめられており、一冊で仏教・キリスト教・イスラム教の三大宗教から、神道やユダヤ教の概要を知ることができる本となっています。また、「コーラン」、「エルサレム」、「輪廻」など宗教に関する基礎的な単語を説明したコラムも載せてあるので、知識がほとんどない人でも簡単に読み進めることができるのも魅力です。

一部の人のみにとどまらず、政治や日常生活にも関わっている「宗教」という存在。この本を読めば、今までと違う視点から世界を見ることができるはずです。

図1：東側立面図

新図書館建設に向けて 第二回

西南学院大学新図書館の紹介

1．はじめに ―設計案採択までの経緯・選定理由

新図書館の設計案が決まりました。2014（平成26）年1月に行われた審査委員会による設計コンペの結果選ばれたのは佐藤総合計画（本社墨田区）案でした。コンペは図書館建設の実績豊かな5社（社名は最後まで明かされず）によって競われました。それぞれ魅力的な外観と機能を持ち、どの案が実現しても素晴らしい図書館になりそうなものばかり。赤レンガの透かし積みを用いた採択案は、なによりもその建築としての圧倒的な存在感がひときわ審査委員の目をひきました。また内部の蔵書を屋外からでも視認でき、「ブックツリー」と「ラーニングリーフ」という「西南の知の樹」にたとえられた構造は、われわれの考えていた4つの基本理念をもっとも効果的に実現していました。さらに高い吹き抜け空間に隙間なく配された書架は、「本」自体が宿す混沌とした世界観を見事に視覚化し、わたしたちの思考を刺激してやみません。

この4月から月2回のペースで基本設計のための定例会議も始まりました。出来るだけ迅速な情報開示を心がけますので、ご意見やご要望などあればどしどし図書情報課へお寄せ下さい。お待ちしています。

（図書館長 後藤 新治）

図2：多目的ホールイメージパース

図3:エントランスホール・展示スペースイメージパース

2. 建設概要

①建物概要
　延床面積 12,200㎡
　7階建
②収蔵冊数 約200万冊
③座席数 約1,200席

3. 基本コンセプトと理念

2013(平成25)年5月、新図書館建設委員会が発足し、同年9月答申書を学長宛提出し、承認されました。その中で、新図書館の基本コンセプトは、これまで持っていた図書館の基本的機能を強化しつつ、今新たに求められている学修支援を促進する機能を備えることでした。また1日中図書館で過ごせるような居心地のいい空間を提供できる機能を備えた施設にしたいということも考えました。

そこで、次の基本理念が生まれました。

① 学修・研究・保存の機能を強化した情報空間
② 能動的学修と創造的対話を促進する交流空間
③ 知的刺激と想像力の解放を求めて集う遊戯空間
④ 過去を学び、現在を見つめ、未来を描く歴史空間

4. 特徴について

基本理念を具現化するために、新図書館では次のような施設・設備を考えています。

新図書館はこれまでどおり静かに学修したり研究したりするサイレントゾーンはもちろんのこと、おしゃべり等ができるアクティブゾーンも設けます。特に学修支援を促進する機能として、少人数で集まって自由に授業等での発表の準備をすることができる空間として「ラーニング・コモンズ」(注1)を設置し、そのエリアでは声を出しての議論などもできるようにします。また、ゼミ単位での利用がしやすいグループ学習室やディスカッションスペースも設置予定です。また、ハード面だけでなくソフト面でも、レポートや卒論などを書く場合のライティング・サポートやパソコンの使い方などの指導をするITサポート等の図書館で自学自習を進めるために必要な体制を整え、情報リテラシー教育を一元的に提供したいと考えています。更に、以前から要望がある飲食できるスペースも設置し、長時間図書館で過ごせるような居心地のいい空間を創出します。

その他の新しい施設として、ゼミでの発表や準備ができるプレゼンテーション・スペース、いろいろな目的で利用できる多目的ホールも設置予定です。

施設・設備以外でのこれまでとの大きな違いは、利用者にできるだけ多くの資料に触れてもらいたいという思いから、これまでのような「閉架」というエリアを極力設けず、自動書庫(注2)以外の書架は、誰でもが自由に手にとって中身を確認できるようにするということです。本の力を感じることができる空間をデザインします。

図4:ブックツリーイメージパース

5. 今後のスケジュールについて

基本設計が5ヶ月間、実施設計が6ヶ月間、建設工事が16ヶ月間の予定です。竣工予定は2016(平成28)年8月で、その後、書籍等の移転作業を行い、2017(平成29)年4月から新図書館の一般利用を開始する予定です。

(図書情報課長 古庄 敬文)

(注1)複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。

(注2)人が入れない書庫で、この中の資料を見たい場合はOPACで検索して取り出しの注文を出す。注文を出された資料は取り出しのカウンターまでコンテナによって自動的に運ばれて来る。

DATABASE

データベース紹介

前号に引き続き、図書館で整備しているデータベースをご紹介します。

本や雑誌から情報を探す時、膨大な量の資料の中から、必要な情報を探し出すのに苦労することがあります。データベースは、それらの苦労を軽減し、関連情報へのアクセスも簡単に示してくれるという利点があります。このコーナーでご紹介するデータベースの他にも、多くのデータベースに図書館のホームページからアクセスすることができます。ぜひ、実際にアクセスして、検索してみてください。

東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー

図書情報課 坂本 里栄

アクセス方法 ： 図書館HP＞データベース＞「テーマから探す」の「経済」もしくは「金融」にチェックを入れて「表示」をクリック＞東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー

『週刊東洋経済』（前誌名『東洋経済新報』）の歴史は古く、日清戦争が終結した1895年にまで遡ることができる。1世紀以上の歴史をもつ経済総合誌である。過去には、石橋湛山や高橋亀吉といった著名な経済評論家が多く在籍しており、日本近現代史と重なる歴史はとても興味深い。これについて語ることは別の機会に譲るとして、この雑誌は編集方針の変更はあるものの創刊時からの自由主義の立場を守り、戦時下の言論が抑圧された時代も刊行を続けた。戦後は、公共性を重視した論説を展開しており、他の経済誌とは違った視点で社会を論じている。

経済誌というとハードルが高く感じる人もいるだろう。私自身、学生時代は近現代の日本文学を専攻したことから若干の苦手意識がある。しかし、経済分野の視点は専攻に関係なく一般教養として身に着けておきたいところである。この点で『週刊東洋経済』の経済というフィルターを通して整理された記事は、日々集まってくる情報や関心がある事項を構造的に理解することに重宝している。

例えば、毎年継続的に組まれている「本当に強い大学」という特集では、高等教育政策を踏まえた論点の整理に加え、財務的なデータに基づいた分析が加えられることから、大学図書館職員としては貴重な情報源となっている。

また、経済誌ではあるが時事問題の記事も充実している。現在国際問題として注目を集めているウクライナに関する記事も掲載されている。2014年3月8日号の「ウクライナ情勢が緊迫日本の対ロ外交に影響」という記事は、日本の新聞記事（朝日、産経）からの記事を引用しながら、ウクライナ問題について簡潔にポイントを整理すると共に、ロシアが積極的に事態に介入してくるであろうこと、米国が日本にも歩調を合わせることを要求してくるであろうこと等、今後の展望についてのヒントを与えてくれた。この記事を執筆している3月初旬において、既にこの記事に記載されていた展望は現実のものとなりつつある。

何かを「学ぶ」とき、継続的な情報収集が必須となる。情報を集めた次の段階として、集めた情報を整理することが重要となるが、世の中には沢山の情報が溢れており、それらを関連付け、体系立てて整理することは独力ではなかなか難しい。そのような時、役立つのが関連情報や背後関係が整理され、分析や解説が加えられた記事が載る雑誌だ。雑誌を情報整理に活用し、持論を語れるように訓練することは、レポート作成に役立つだけでなく、社会人となる準備にも有益となることは間違いない。

情報の整理を目的としては、記事本文まで自由に検索できるオンライン資料を私は活用してきた。これまで『日経ビジネス』や『週刊エコノミスト』といった雑誌が図書館ではオンライン資料として提供されてきたが、この4月より『週刊東洋経済』がその仲間入りをする。これからは、『週刊東洋経済』も活用したいと思う。

このほか企業情報で定評のある『会社四季報』やビジネススキル向上をテーマとした『Think!』もデータベースにて閲覧できる。就職活動での活用については、就職課でガイダンスの実施を予定している。興味のある方はどんどん触ってみて欲しい。

OED_Onlineのすすめ:古今英語語彙のドラマティックな履歴書 後編

文学部 外国語学科
英語専攻 教授 久屋 孝夫

アクセス方法 ： 図書館ＨＰ＞データベース＞画面下方「契約データベース」の「辞書」をクリック＞OED：Oxford English Dictionary

前編（図書館報No.175）からの続き

2) 現在では廃用や古語となった意味も年代順に記録されているので、例えば（狭義の）「生き物（＝四つ足の動物）」という意味での英語語彙の時系列的変遷を知ることができる：出現順にdeer(定義1.)950,beast(定義2.)c1225, animal(定義1.b.)1594。1500年前の古英語期にはdeer(現代では＜鹿＞に限定、英語と歴史を共有する西ゲルマン語族のドイツ語Tierは古英語の意味を現代まで保持)が主流であったが、1066年以降フランス語を話すノルマン王朝に支配された関係で、中英語期にラテン語系列のbeastに、さらに近代初期にanimalに交替し、現在に至る。Deerではなくanimalが四つ足動物の総称の地位についたドラマティックな経緯がOED_Onlineの時間軸に沿った記述によって分かる。

3) 英国の民族および国家名称がその領域の概念の変遷(拡大)に伴い変容定着していく姿も捉えることができる。それはOED_Onlineと連動するHistorical Thesaurusとの相互参照により、歴史上現れた類似概念のリスト、いわゆる同義語を精査し、以下のように、ネットワーク化することができるからである。

【民族呼称】*English（OE）, British1606; Briton 1679; Britisher1815; Brit 1884.*
【国家呼称】*Britain（OE）; Albion（OE）; Great Britain 1604; British Empire 1604; Britannia 1605*（女性として擬人化された英国）*; British Lion 1687; United Kingdom 1737; John Bull 1778*（男性として擬人化された英国）*; U.K. 1892.*

上記リストは国家のアイデンティティを巡る模索が17世紀初頭(エリザベス一世没後)より活発になり、近現代に向けてさまざまな試みがなされる過程を、OED_Onlineがつぶさに記録していることを意味する。

4) 18世紀に本格化する、産業革命の先駆けとなる知の組み替えの象徴としての意味変容 ーindustryが＜勤勉・熟練＞(1477/1513)から＜勤勉な仕事＞(1531)を経て＜産業＞(1621)へ、engineが＜才能・技量＞(1300)から＜発明・工夫＞を経て＜内燃機関＞(1538)への変化ーもマクロな社会状況の質的変化の一部分であることをOED_Onlineは端的に示している。

ここでOED_Onlineの完成に至る長い道のりについて触れたい。OEDの萌芽はSamuel Johnsonの英語辞典*A Dictionary of the English Language*(1755年刊)にある。それがそれまでの英語辞書と異なるのは、難解語に留まらず、英語話者にとっては説明不要な日常語とその定義を加え、語源学が未発達な時代にゴート語、ラテン語、ギリシャ語まで遡る「語源」情報を取り入れ、当時の主要言語資料からの「引用例」により「定義」を傍証する革新的編纂を、独力で、かつ8、9年という短期間に成し遂げた点にある。

その百年後、1857年Philological SocietyでのDean Trenchの発議をきっかけに、ジョンソン辞典を範としつつ、それを質量ともに凌駕することをめざし、1879年James Murrayを初代編集主幹に据えて長期の編集作業が開始された。世紀をまたいで1921年本巻12巻が完成し、さらに補遺・引用文献名リスト1巻を加え、全13巻として1933年に完成を見た。その後、過去の落ち穂拾いをし、また、爆発する英語世界の知の全貌を記録するため、最新の文字記録資料を追跡し、収集することを心がけた結果、本巻12巻に新たな4巻の補遺を加え、1986年に全16巻の体裁となった。1989年には補遺を本巻に組み入れ、新たな追加情報を加え、OED2(第二版)*として、さらに1992年からは電子媒体CD-ROMの形態で提供され、パソコンで参照できるようにもなった。(*OED2：全20巻；全21,728ページ；見出し語総語数291,500；引用例2,436,600)

その後も、知の地平の拡がりゆく中で、次々創造される新概念や発見をフォローすべく、1993年からは資料収集・編集の電子処理方法が定着し、2000年からOED3(第3版)として知られる上記のOED_OnlineがOxford Universityのweb上にonlineで公開され、適宜更新・修正され、それらをリアルタイムで参照できるようになった。OED3は見出し語によっては、それまでのOED1,OED2とは定義・意味の体系を組み替えて、全く新たな編集方法が施されているものも多々含まれており、これまでのものとは装いも異なったようすを、実際に比較しながら参照することができる。

以上OED_Onlineについてわずかながら紹介させていただいた。歴史的・文化的・社会的文脈の中で誕生した語の個性的履歴を理解し、さまざまな角度から英語を学ぶ際の楽しみの一助として是非役立てていただきたい。文学や言語学を専門にしていない人もこのオンライン辞書の暖かい日差しを浴びて心ゆくまで英語に親しみ遊んでほしい。

最後に、OED_Onlineの編集母体となるオックスフォード大学(Pembroke College)を中退し学士号さえ得られなかったジョンソン「博士」※の自己卑下と自虐の裏に自負も垣間見える、自らの実体験に裏打ちされた、LEXICOGRAPHERの著名な定義を引用して結びとする。
"A writer of dictionaries; a harmless drudge, that busies himself in tracing the original, and detailing the signification of words."
(辞書の書き手；語の起源を追い求め、意味用法の詳細を詳らかにするのに時間を忘れ、[だからといって世間から賞賛を浴びることもない]無害な仕事に精を出す者)

※付記：ジョンソンは文学博士ではない。幻の「母校」であるPembroke Collegeが、ジョンソン辞書出版に先立つ2ヶ月前(1755年2月)、その業績を（おそらく過去の文筆活動も考慮し、前以て）称え、贈ったのは「名誉」文学修士号 (Artium Magister)である。彼の辞書の標題ページの「辞書の書き手」Samuel Johnsonの名の傍にA.M.という称号が書き添えられたのにはそういう経緯がある。授与時45歳となっていた彼の、ラテン語で書かれた「学位記」が古文書として額縁に入れてBritish Museumに保管されているのを、先日筆者は手に取って確かめた。ちなみに55歳の時ダブリンのTrinity Collegeから、65歳の時、オックスフォード大学から、文学以外の多面的な過去の業績に対して名誉法学博士号を授与されている。博士の名はそこに由来する。

国際文化学部 国際文化学科 准教授　尹 芝惠

『國華DVD-ROM』

［開架1階(視聴覚) 705/D-ROM/KOK 禁帯出］

【図1】葛飾北齋筆≪鏡面美人圖≫

【図2】東洲齋寫樂筆≪四代松本幸四郎の加古川本藏と松本米三郎の小浪≫

【図3】宮川長春筆≪歲旦迓女に禿圖≫

表紙に写っている「箱」。これは何？図書館の貸出・返却カウンター近くのショウケースの中にあるこの「箱」を見たことがありますか？明治22(1889)年に創刊され、現在も刊行を続けている日本・東洋美術研究誌『國華』の電子復刻版『國華DVD-ROM』です。美しい布に包まれた外箱を開けると、きれいな桐箱。その中にDVD-ROMとCD-ROM。コンパクトにするために電子化されたはずなのに、何という無駄な作りなのでしょう。この電子復刻版『國華DVD-ROM』が図書館に納品された時、この「想定外」の箱を見て唖然としましたが、しばらくして、冊子版の『國華』に初めて出会った時のことを思い出し、これはやはり「想定内」のことだと納得したのです。

浮世絵が好きで、日本で留学生として勉強をはじめ、学術雑誌『國華』の存在を知りました。まず驚いたのは華麗な表紙、上質な紙、何よりも他の研究誌ではみることのできない天然色の参考図版でした（図1）。上質な図録をみているような気がして、学術雑誌がこのように豪華だなんてこの国はやはり裕福だな…、雑誌の名称も何か右翼的な感じがして違和感があるけど…など、その雑誌の歴史について何も知らない留学生は勝手に想像をめぐらせながら、難解な研究論文を読む苦痛よりも、美しい図版に出会う楽しみがまさって、その魅力に陥りました（図2・3）。

実は、『國華』という名称は岡倉天心の創刊の辞「美術ハ國ノ精華ナリ」から付けられたものです。当初から精巧な図版と充実した論考を兼ね備えた、超豪華版の月刊誌として出版されました。創刊当時、原色図版は木版色摺りで、一流の職人が担当したことから、図版だけでも立派なものであり、当時のものは現在、それ自体が作品として高く評価されています。印刷技術の発達により、図版の制作方法は変わってきましたが、現在も上質な紙に色鮮やかに印刷された図版は当初からの高い質を保ち続けています。内容の面でも著名な研究者によって日本と東洋の優れた美術について質の高い論文を掲載し、埋もれていた名品を数多く世に出すなど、日本や東洋の研究資料として重宝されていることは言うまでもありません。

創刊から130年を超える歴史をもつ『國華』は、今年の4月に第1422号が発行されましたが、2003年から3回に渡り、電子復刻版『國華DVD-ROM』も発行されています。冊子の電子化は、膨大な情報量をコンパクトにまとめる効果だけではなく、特に画像を拡大して比較分析することができるようになるなど、美術史の研究に大きく寄与しています。

表紙の話に戻りましょう。この雑誌がもつ歴史の重みや価値を考慮し、味気ない「ただのDVD-ROM」では、創刊者岡倉天心たちに申し訳ないと考えたのでしょう。ケースもまた一つの芸術作品になるようにデザインされています。それが「美しい布製の外箱と桐製の内箱」の誕生です。

現在、本図書館には『國華DVD-ROM』シリーズの②と③のみが所蔵されています。本来であれば①から揃えるべきですが、価値としては「想定内」の豪華なものが「想定外」に高価だったのです。

学生のみなさんのほとんどは、卒業すると研究雑誌に触れる機会が少なくなると思います。せっかくですから、美術史にあまり関心がなくても、大学に通った教養人として、自分が生まれ育った国の文化を知るために一度手にしてみてほしいと思います。図書館に立ち寄った際に『國華DVD-ROM』に触れてみてください。

参考文献
図1：「國華」vol.1377,2010年7月、図2：「國華」vol.1364,2009年6月、図3：「國華」vol.1369,2009年11月

編集後記

新入生の皆さん、図書館にはもう入ってみましたか。大学の図書館には、皆さんが専攻する専門分野に関する様々な情報があります。それらの情報は、本、雑誌、DVD-ROM、そしてデータベースなど、紙媒体から電子媒体まで、様々な媒体に載っています。最初のうちは、知りたい情報を図書館で探すことに、難しさや面倒さを感じることがあるかもしれません。でも慣れてしまえば簡単です。4年間で西南の図書館を使いこなし、そして使い倒して卒業してください。図書館での情報収集の方法がわからなければ、ご遠慮なくカウンターで質問してください。皆さんの来館を待っています。(Y.O)

西南学院大学図書館報 No.176
2014（平成26）年4月30日発行
編集 図書館報編集委員会
発行 西南学院大学図書館
〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号
TEL（092）823-3426
http://www.seinan-gu.ac.jp/library/
図書館報バックナンバー（No.153～）も上記サイトに掲載しています。